

吐魯番のみは、訛音多く始んど他と同じからず。喀什噶爾語は、土耳其語より出てたるものなるが、之を中央亞細亞の諸汗國語に比較せば、只物名の種々分れ、且つ其の用法の異なると、之に支那語を混用せる點を違へりとす。而も其の字體は横行にして、亞刺比亞文と同じ。

以上の諸説を湊合して考察すれば、纏頭回民の大部分は、波斯人なること疑なきものゝ如し。而して其の風俗習慣等は項を改めて記する所あるべし。

二 蒙古族

吐爾扈特人、額魯特人、和碩特人は、所謂「モンゴル」種族と同一系統の人種にして、亞細亞大部分の各人種を「モンゴリアン」と稱するもの、畢竟此の種族の名より出てたるならん。彼等は、宋朝の末期より支那人は之を蒙古モンクと呼び、又明末には韃靼タタールと稱せり。蓋し周時代より、屢、邊境を侵し、春秋時代以降、秦漢の時代に亘りては、戎狄リウ或は匈奴リウ或は獯狁リウと稱へたるも、亦同人種の一部族なるべし。當時彼等は、蒙古の大沙漠中に、水草を逐ふて游牧し、氈幕を張て生活し、性慍悍、武を好み、勇を愛し、屢、支那を苦しめ、遂には之を征服して、中央亞細亞に一大帝國を建立し、勢威隆々、歐亞の兩

戎狄、匈奴、獯狁